Feeling excited

"Dance with Heart"
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001（代表）
菊の会京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701（代表）
http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart

大和楽「藤むらさき」

ブラジル連邦議員
西森ルイス弘志

ブラジルで日本伝統芸能を享受できる喜び

長い歴史を持つ菊の会の皆さまの日々の活動への献身に心より敬意を申し上げます。

日本文化普及に向け海外公演にも力を入れられている菊の会では、二〇〇八年に迎えたブラジル日本移民百周年の際には遠いブラジルへ遥々日本よりお越し下さり、サンパウロ市、パラナ州クリチーバ市、マリンガ市、ポンタ・グロッサ市とブラジル国内四カ所で熱の込もった公演を披露して下さいました。日本の伝統文化を懐かしむ移民一世や、その迫力に感動した二世、三世より大きな喜びの声が聞かれました。

サンパウロ州やパラナ州は、ブラジル国内でも特に多くの日本移民が入植した土地であり、現在に至っても多くの日系人人口を有しています。日系人が多い街では必ずと言ってよいほど日本人会があり、日本固有のスポーツや文化活動の普及を推進しています。パラナ州都のクリチーバ市では、毎年市が開催する「パラナ民族芸能祭」として有名な各民族が集う祭典が行われており、同地の日本芸能グループが参加するようになり千八百人の大観衆を前に日本の芸能を披露するまでになりました。毎年その舞台を楽しみに訪れるブラジル人客も多いものです。

しかしながら、このように私たちが遠く離れたブラジルの土地で日本の文化、芸術を享受し発展させることができるのも、日本国内でその伝統をより良く受け継ぎ、普及に努めてきた菊の会のような皆さまが模範になっているからでありましょう。これからも、どうか引き続き日本文化の世界への発信、普及にご尽力いただきたいと存じます。

来年二〇一五年は日本とブラジルの日伯修好百二十周年を迎え、同時に北パラナ入植百周年という記念すべき年であります。今後のこういった機会に伴い皆さまのすばらしい舞台を再度ブラジルでお目にかかれますことを期待するとともに、ブラジル日系社会の私共も日本文化のより良き伝承に向けて決意を新たにする所存でございます。おわりに、舞踊集団菊の会の皆さまの今後益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ブランニュー
ダンスマーケット
代表 能見広伸

絆と共にこれからも

私が初めて畑道代先生とお話をさせて頂いたのは、今から二十年ほど前になるでしょうか。柔らかく温かな微笑を浮かべながら、古くからの「戦友」である父（故 能見英俊。芸名ダニー能見）にそっくりだと懐かしんで下さいました。

何度か私の主宰するダンススタジオに足をお運びいただいたり、事あるごとに、凛としたお声で「貴方には本当に大きな使命があるの。自由に動いて貴方の世界を広げて行ってくださいね」と激励して頂いたことが昨日のことのように思い出されます。京都の菊の会の研修所にお招き頂いたのも、懐かしい思い出です。

私は、畑先生とお会いしてから、それまであまり縁のなかった日本舞踊の舞台を観せて頂く機会が増えました。そして一回でも多く、菊の会の舞台は観せて頂こうと決め鑑賞させて頂いてきました。それはこんなことがあったからです。

私が人生を左右するような行き詰まりに直面した時、菊の会の公演に伺う機会がありました。舞踊手の皆さんの、いつも変わらぬ踊りに対する直向きな姿勢と、未来を背負い踊る瞳の奥の輝きを見て、涙で舞台が見えなくなりました。終演後に楽屋で先生とお話をさせて頂いた折、状況を聞いて下さった先生は、「貴方には使命があるから。大丈夫！」と、これもいつもと変わらぬ凛としたお声での温かい激励。何があろうとなかろうと、何のために踊るのか・・・それは変わりはしない。一度心定めた舞踊の道。決めた心のままに舞い踊るのが私たちの人生でしょ・・・そんな風に、踊りで、目で、心で訴えかけて下さった先生と菊の会の皆さんのぶれない信念のお姿に、よし、自分も頑張らなければ！と勇気を奮い起こすことができたのです。

父も私も洋舞。進む道は違えど、畑道代先生、そして畑代表をはじめとする菊の会の皆様をお手本としながら、舞踊を通して世界中の人々の何らかのお役に立てるような人生を送って行きたいと思います。

在りし日の
創立者・畑 道代

2014年菊の会公演予定 INFORMATION

東京アトリエ公演・日本のおどり
第16回 さつき会
5月3日(土)・4日(日) 各日12：00／16：00
菊の会スタジオ〔新宿区〕
自由席 4,000円／指定席 5,000円

舞踊集団 菊の会公演・日本のおどり
日本のおどり
5月24日(土) 15：00
所沢市民文化センターミューズ
マーキーホール〔埼玉県所沢市〕
自由席一般 5,000円／指定席 6,000円
学生 2,000円

舞踊集団 菊の会・物語シアター合同公演
第1部 山椒大夫（物語シアター・朗読劇）
※菊の会メンバーが主役を務めます。
第2部 日本のおどり（ふるさと囃子）
6月6日(金) 16：00
7日(土) 11：00／15：00／19：00
8日(日) 12：00／16：00
菊の会スタジオ〔新宿区〕
全席自由 4,500円

◇舞踊教室の御案内

東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、京都

私達と一緒に踊ってみませんか？
正しい姿勢、行儀作法も自然に身に付く
楽しい菊の会舞踊教室です。

※詳しくは菊の会事務局までお問い合わせ下さい。
TEL 03-5983-6001／FAX 03-5983-6002

◇友の会へのお誘い

「友の会」は菊の会をサポートする後援会です。

友の会特典
- 会報「日本のおどり」の御送付
- 茶房「舞む」のコーヒーサービス券の贈呈
- 記念品の贈呈

一般会員：一口 1万円
法人会員：一口 5万円
（※何口でも可）

京都 木屋町 旅館 畑
旅館 畑は三条鴨川に面し、初夏は床が開かれ、
四季折々の京都の情緒がお楽しみ頂けます。
《要予約》 〒604-8001 京都市中京区木屋町通り三条上ル
TEL 075(231)5200／FAX 075(231)0333

茶房 舞む Sabou Mamu
営業時間 10:00～18:00
（ラストオーダー 17:30）
ランチタイム 11:30～15:00
定休日：日曜・祝日
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
こちらにアクセス☆
http://r.gnavi.co.jp/7zsuh6kx0000/

覚悟の季節へ

舞踊演出・研究家
村　尚也

「長崎甚句」

菊の花は花芯が見えない。それに比べ、梅桜は雌しべ、雄しべが花の中央に見える。畑道代を失った菊の会は、いま、その意味で菊花そのものになろうとしている。

現在の舞踊界に必要なものとして、すぐにスター主義を云々する傾向があるが、それより、花弁の寄り集まった菊花は、その花の特性を生かした運営を考えるべきだ。それは今まで日舞界には無かった作品主義、企画・演出主義であろう。

従来の菊の会がレパートリーとしていた創作舞踊劇は、観客の理解を得んが為に台詞を多用した。要するに肝腎な部分―モチーフ・テーマ・プロット―を舞踊ではなく台詞に託して進行する行き方だ。そのメリットとして観客の作品理解はうながせた。が、逆に理解以上の何かをもたらさない憾みが残った。わかりやすく作ることは、空腹を満たすのが主目的となった食事と同じで、味覚・嗅覚・視覚などに対する感動に至らないことが多いものだ。

「流れ」

『釣女』『身替座禅』等の狂言舞踊のわかりやすさ、大衆性、そして何より団員の技術の確かさには定評がある。が、きちんとした行儀の良さや間や振りの正確さが、却って私達をもう一つの高みへ連れて行ってくれない。喜劇は裏切られることの快感が大切で、決まりきった笑い以上の飛躍が欲しくなる。

そして新舞踊と民謡舞踊―、躍動感と華やかさ、ダイナミズムは、他にも優れたエンターテインメントのある時代だ。これらの価値観とは異なる、もう一つ先の舞踊を見越す視線や感覚が求められる。

菊の花の求心力は盛んにして溢れ出づることである。決して若さ頼みでは解決できなくなった時だからこそ、作品あるいは、もしかしたら舞踊自体の幻に立ち向かうドン・キホーテを演じる覚悟の季節なのかもしれない。

狂言舞踊「花冠者」

ブラジル経済友好使節団一行が菊の会スタジオを来訪!! 栄誉賞を授与

〔顕彰状　翻訳〕

ブラジル連邦共和国紋章
下院議会
顕彰状
菊の会

2008年のブラジルを含め世界中を魅了する美しきプロフェッショナルな伝統芸能の公演を通じて美術・文化・日本の伝統の保全と普及に対し、ルイスニシモリ連邦下院議員の議案により本状をもって賞讃し顕彰する。

2014年2月20日
ブラジリアにて
伯日国会議員連盟
下院議員ルイスニシモリ

CÂMARA DOS DEPUTADOS
MENÇÃO HONROSA
KIKUNOKAI

ブラジル経済友好使節団の皆様と

ブラジルより第四十一回経済友好使節団（団長西森弘志氏、ロンドリーナ市長アレシャンドレ・ロッペス・キレェッフ氏をはじめとした一行二十七名）が、三月二十四日菊の会スタジオを訪問し、ブラジル連邦共和国下院議会より菊の会に対し顕彰状が贈られました。

西森弘志連邦議員には、二〇〇八年の菊の会ブラジル公演の折、様々な面でご尽力を頂きました。

初めに寿菊三番叟で華やかに歓迎し、授章式、歓談、会食の後、「菊花太鼓」と舞踊選集を披露し、記念撮影を交えながら楽しい友好のひと時を過ごしました。菊の会のブラジルへの再訪を熱望され帰路に就かれました。

志を高く!! 更なる飛躍を―

公益財団法人
日本チャリティ協会
会長　髙木金次

先夜、スペースゼロ（新宿）で「菊の会」の公演を拝見し、努力と、進歩の跡を思い瞼が熱くなった。創立者畑道代先生もきっと天上から成長ぶりを目を細め、安らいでいたことと思う。畑先生が残した有形無形の財産を引き継ぐと言うことは、生やさしいことではない。平成二十二年八月二十九日亡くなられて、わずか三年の間よくここまで頑張ってきたと驚くと共に賞賛を惜しまない。昔話に戻るが畑先生との親交は「菊の会」の誕生以前から続いていた。舞踊界の人間でない私とどうしてと思うだろうが、私が推進している「福祉は文化」という理念に同意してくれたことと思う。

ここで誕生当時のエピソードを一つ、当時畑先生が言うには、歌舞伎・文楽・能などの世界は男性ばかりなのにどうして舞踊界は女性ばかりなの。今、私の手元で小学生の男の子が二十名ばかり踊りを習いに来ている、そして生まれたのが「仔鹿グループ」であり、成長したのが「若獅子グループ」である。

今、代表を務めている畑聡氏はその愛弟子の一人であるが、名伯楽が名馬を育てた諺のとうり舞踊団員一人一人についても然りであろう。畑先生の衣鉢を継いでよくこれまでに成長したものと感嘆している。

言うまでもなく先生は舞踊界の惑星であり、数々の業績を残し斯会の発展に尽くしたが、この活動は国内に止まらず海外に及び五十三か国九十五都市において、日本の伝統芸能の普及に努力、片方では全国の小中学校を廻り、舞踊教室等を通じ次世代の舞踊愛好者を懸命に育てている。

正にその姿は日本舞踊の伝道者の姿である。更に、福祉にも深い理解を示され、当協会で実施するチャリティショウや福祉のイベントに積極的に協力を頂く他、日中友好の文化の架け橋となる事に夢をかけている。あえて難を言うならば経済力である。この国は文化に弱いと言われて、誠に残念である。また、とかくオーナーが欠けると、その組織は弱く、総体が解散するのが常であるが「菊の会」は畑　聡氏を主軸に団員諸氏が歯をくいしばり結束して生きようとする姿を目前にし「菊の会」の志の高さと、努力と活動を思い、オリンピック開催が決まった今、一層の飛躍を願い声を限りの声援を贈りたい。

「土踏・波踏・舞踏」

男の花 女の力
―菊の会のいま―

アナウンサー
葛西聖司

京都 菊の会八瀬研修所

京都、八瀬の研修所で見た菊の会の公演が創立三十周年の記念だった。ここを初めて訪ねたのは、少し前。テレビ番組収録のため舞台をお借りしたのだ。そのおり、施設の素晴らしさにびっくりして、ここで研鑽をつんでいる菊の会の公演はどんなものかと、食堂の調理師さんになにげなく質問した。すると「こんな不便なところなのにお客さんは毎回いっぱい。だって内容がとっても、いいんですよ。ぜひ見てくださいね」といわれた。自分が踊るわけでもないのに、この調理師さんの誇らしげなことばに、時間をやりくりして再訪したのだ。そこで畑道代さんのめざしていた、踊りに懸ける思いを目の当たりにした。その後、東京でも繰り返し拝見してきた。

畑　道代

そんな道代さんは次の世代にバトンを渡した。受け取ったひとりが畑聡さん。菊の会の公演以外でも、流派を超えた舞踊家のアトリエ公演「金曜赤坂座」で『寒牡丹』『新曲浦島』などを見た。道代さんの教えを忠実に反映させた舞台だった。その特徴は端正。極端な自己主張をせず規矩（きく）を守った素踊りは心地よく、静謐（せいひつ）さの中に花を見た。

道代さんは女性。その活動と表現にカリスマ的な力があった。普通、力は男性、花は女性の記号だが、菊の会のみなさんは群舞を展開しても、仕抜きを演じても、それぞれの個性は個性で男性には力感だけではない花が、女性には華やかさを支える底力を感じる。

菊の会の特色は日本の風土と文化の多様性を描ける力。伝統を踏まえた創作の力。そして集団での表現力にある。これらは東京オリンピックに向けて、まさに求められる国際性であり、わたしたち日本人のアイデンティティーを再確認させてくれるものだ。

花と力を涵養（かんよう）し続ける菊の会は、これからも目が離せない。

畑　聡